

# 「自分の死」は実体か？ 違う！！構成概念である

- 
- ① 他人の死は経験できる実体
  - ② 自分の死は経験できない  
→思考が構成する「構成概念」

構成概念は不定型。一人一人常に変化するので、構成概念(自分の死)に定型の条件や権利を定めることは危険です

「自分の死」は構成概念である。実体であるかのように誤認して、安楽死・尊厳死などの一律な規定を他者が設けてはならない。→ 外国で論議になっていない。気づかれていない重要なポイントである。<sup>19</sup>

### ③ 生命維持治療の 「差し控え」と「中止」 について考えましょう

---

人工呼吸器について

- ① 装着を差し控えることと、
- ② 装着した呼吸器を中止することは  
身体の在り方から異なります  
「中止」の文言は構成概念

図1 身体を部分の集合と考えた場合

<中止>

終末期患者



介入

終末期患者

介入との集合体として  
生きている

外す=差し引く=中止

<差し控え>

終末期患者

終末期患者

介入

介入

# 図2 身体を統一された全体と考えた場合には、「差し控え」と「中止」は異なる



### ③ 差し控えと中止⇔不作為と作為を考える

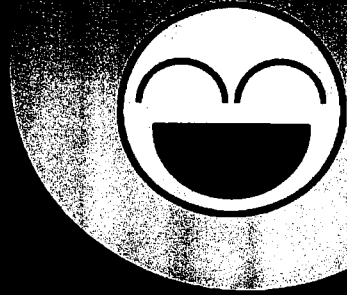
---

## 差し控えには2種類の異なる概念がある

川島孝一郎: 身体が存在形式または、意思と状況との関係性の違いに基づく生命維持治療における差し控えと中止の解釈。「生命倫理」

## 不作為でも作為でもない差し控え があります についての説明

# ⇔状況を受容する⇔



- ①私と状況は統合され分離不能。
- ②対象の不存在。状態である。
- ③この状態を                    又は                    と  
いう語句で表す。目的や行為ではない。